

社会福祉法人尾道さつき会 尾道福祉専門学校
令和元年度 第1回教育課程編成委員会議事録

1. 日時 令和元年9月11日(水) 14:30~16:00

2. 場所 尾道福祉専門学校セミナー室

3. 出席者

広島国際大学 医療福祉学部 学部長 久保田トミ子氏

社会福祉法人泰清会 サンライズマリン瀬戸 施設長 久保田あけみ氏

株式会社ゆず 代表取締役 川原奨二氏

校長 工藤博道 教務主任 豊田美絵

4. 議題

①はじめに

校長より、来年4月から始まる授業料無償化について説明。その認可の要件もある中で、この委員会の意味として、会議の内容がカリキュラムにどのように活かされているかが申請に必要となってくる。企業と連携して教育を行っているか等。

申請については9/20頃分かる予定。在学中も使用可能となる。

資料・2017~2019年度入学状況一覧表にて入学者を市町別で比較。福山方面の学生が増えた。高校訪問などで進路指導や対応した教員には貸付の説明、紹介をしている。

久保田ト氏：委託訓練生の辞退者の理由について聞きたい

校長：委託訓練生は訓練校への入学と求職を同時に行っている。希望する仕事があれば辞退するという方向になる、今回3名のうち2名が就職、1名は病気により辞退となった。

②留学生について

校長：4月に入学した留学生の日本での手続き等を説明。日本語学校からくる学生と本国から来る学生の受け入れ方が全く違う。保証などのこともあり、法人保証として受け入れをした。賃貸アパートなどの契約が困った。

学生については非常に勉強熱心。尾道の日本語学校の校長に協力していただき、学生の抱えている質問等に答えてもらい学生本人もスッキリしたと。今後このようなフォローが必要。実習では方言が分からなかったようだ。

このような現状からも、N2以上の学生でなければ受け入れ、授業についていくことが難しいと考えている。

久保田ト氏：当大学については寮があるので留学生は全員半額で寮に入る。

川原氏：夏休みに時間いっぱい働きたいのにバイト先が働かせてくれない。本人とバイト先はうまくいっているのか少し話を聞いて気になっている。

校長：法人として育てていくことが必要だが、連携ができていないようできていない

のか、今後の課題として考えていく。

久保田ト氏：アジア国際研修センターを立ち上げてやっているが、法人(施設)職員の意識をかえて留学生(外国人・特定技能)を受け入れていかないといけない。

目的意識を法人(施設)職員が明確に持たないといけないのではないかと。

校長：他学生にとってはいい刺激になっている。また介護施設から日本語学校を卒業した留学生を受け入れ専門学校へ入れたいと思っているという問い合わせが増えている。

久保田ト氏：インドネシアなど諸外国では6月卒業で秋入学となる。大学に秋入学のシステムがないため、現在、科目等履修制度で受け入れを考えている。

③カリキュラム・介護実習について

豊田：2019年度のカリキュラムは前年度と変わっておらず、新カリキュラムは2021年度からと考えている。すでに取り入れている大学から何か参考になれば聞かせていただきたいと思っている。

久保田ト氏：大学ではすでにそういったマネジメントは大切だろうとやっていることなので新たに考えていることは特にない。

豊田：昨年からは選択制になったレクリエーション・インストラクターの科目については今年も3名が受講。教員は専任教員が資格を昨年取得し教授している。また介護過程とチームアプローチについては今年度後期から講師が代わり、介護現場で指導されており認知症研修などでも活躍されている講師をお願いしている。

川原氏：レクリエーションについて3名しか受講していないのであれば、概論の中に入れて全員が受けたほうが良いのではないかと。実習や施設に行くとやっているところが多いため学生にとってもその方がいいのでは？

久保田ト氏：快支援論の中で、暮らしを組み立てていく中でもレクリエーションは必要なのだからそこに入れるとか、ボランティア論に入れる等どうか。

校長：確かにそれは考えていかなければならないとは思っている。検討していきたい。

豊田：昨年度末に卒業生(委託生女性40代)から「社会福祉主事」が取得できれば尾道を選んだという社会人がいたとの情報があった。この資格があれば施設で相談業務ができるため、委託生の女性は年齢的なことも検討しながら、事前に情報を得ながら学校調べをしているようである。

また他校のホームページを見ていると、選択科目や様々な取り組み(アニマルセラピーやメイク、アロマセラピー等)をしている。学校の売りとして他の資格が取れるとうたってきたため、レクイントラを残してきたこともある。

久保田ト氏：今後は卒業生の声も聞き入れたり、高校生の教育の方向性もこちらが知らずに行っていることもあるかもしれない。

④実務者研修の実施状況について

豊田：今年度2回実施予定。初回22名の受講生(9月末に終了予定)、2回目は申し込み1名、問い合わせ1名のため人数によっては開講が厳しい。

校長：昨年度の受講生が34名だったことから回数を増やしてみたが今回は思ったほど人数が集まっていない。しかし国家試験の受験者は多くが実務者研修からである。

久保田ト氏：養成校の充足率が44.2%に対して、福祉系高校の充足率は75%、これはいったい何を表しているのか。

豊田：福祉系高校出た学生に聞くと、自分以外は医療系(看護師・リハビリ専門職等)に進学したという話や、自分以外は就職したという話を聞いている。

⑤その他(意見交換)

久保田あ氏：日本人でも仕事の仕方がなっていない。休むこと一つもメールで「休みます」とだけ。休むことで周囲へ迷惑をかけたことへのお詫びもない。そのような状況を考えると、誠実で一生懸命勉強している外国人の方に就職してもらう方が利用者のためになるのではないかと思う。

また老健では看護師不足の施設もあり、夜勤をしない施設もある。そのため介護職が吸引などしているようだ。

処遇改善加算も10月～(10年以上の職員)、10年は通算となるが本人の申請でしか証明のしようがない。

校長：今回のご意見をまた今後の教育に活かしていけるよう取り組んでいきたいと思っている。